地方創生の最前線を追って 6

『富士宮高校会議所』

富士宮市内の5高校の生徒が地域活性化に高校生の視点と感性で事業展開に取り組んでいる『富士宮高校会議所』はさきごろ、西町レトロ館で「グラウンドワーク三島」事務局長で都留文科大学文学部特任教授の渡辺豊博さんを講師に迎え「まちづくり座談会」を開いた。

まちづくり座談会で富士宮の活性化に活発な意見交換

「グラウンドワーク三島」事務局長の渡辺豊博さんを囲み、富士宮高校会議所のスタッフがまちづくりへの役割を再認識

「グラウンドワーク三島」の渡辺事務局長と座談会で活発な意見交換を行った富士宮高校会議所スタッフ

一般市民を交えた座談会では、渡辺さんの講話の後の座談で一般市民からの質問も相次ぎ活発な意見交換が行われた。

渡辺さんは、日本で初めて市民・NPO・行政・企業がパートナーシップを組むグランドワーク（環境改善活動）を行う「NPOグラウンドワーク三島」を立ち上げ、「水の街、三島」のイメージを掲げ、ドブ化した源兵衛川の水辺再生、水中花三島梅花藻の復活、松毛川周辺の貴重な河畔林の保護活動など学校ビオトープの建設、住民主体による遊水地の計画づくりと維持管理など60余のプロジェクトを実践して、「三島の活性化を成功させた立役者」としても知られる。

東京農工大学農学部農業生産工学科を卒業後、静岡県庁に入庁、農業基盤整備事業の計画実施に携わり、企画部空港対策課主幹・農地森林部農地計画課主幹などを経て、農学博士号取得後には都留文科大学文学部社会学科環境コミュニティ創造専攻教授として日本で最初の富士山学や市民活動論・地域環境計画論・NPO実践論・地域環境計画ゼミなどを開講、2016年からは同大学の特任教授を務めている渡辺さんは、富士山クラブ・富士山エコネット・富士山測候所を活用する会の事務局長や専務理事を歴任、測量士で環境カウンセラー（市民部門）、まちコンサルティング、パートナーシップトラストなどでも活躍している。

一般市民と高校生と街おこしについて、それぞれの役割を考え、活性化事業の推進に意識を高めることを目的に開かれた同日の座談会では「企業とNPOとの協働による社会的ビジネスの創業（市民力・地域力を結集してホタル飛び交う水の街を創造）」と題して、三島市の「水の街」活性化事業とグラウンドワーク三島の活動事例を示しながら社会的ビジネスの経営理念やNPOビジネスの創業を通じたまちづくりについて、「まちづくりは感動の夢舞台」であるとの解説を進めた。

一般市民の参加も呼びかけて開かれた同日の座談会には30人程度と予定した以上の一般市民の参加者が訪れ盛況を博した。

一般市民・高校会議所スタッフとの座談会に続いて、高校生を中心にした座談会も行われ、渡辺さんを囲んで、高校会議所のスタッフは、富士宮をどのように活性化したらよいか、高校会議所の活動を展開していく方法など、これからの事業の可能性と展望を考える活発な意見交換を行った。

高校生会議所のスタッフは、市民力・地域力を集めた地域活性化に渡辺さんの講話で意識を高め、まちづくりへの高校生としての役割を再認識しあった、という。

青木さんの沖縄便り 3

「毎日が新しい出会いで感動」

『OKINAWA　あおき』　青木嘉一郎（沖縄市海邦在住）

「本土と沖縄のかけ橋になりたい」と青木さん

昨年の12月に富士宮から車で陸路を走り、鹿児島からフェリーで丸一日かかって沖縄に上陸しました。

それから早くも3ヶ月が過ぎました。本島の中央部、沖縄市海邦というところに居を構え、ゲストハウスと期間限定ですてきな外人住宅をリフォームしてやっているカフェや、沖縄の古民家をリフォームして甘味処をやっているお店で、企画展を開催しております。

おおらかな港や海の風景

本土の作家の作品展を開催すると「こんな作品は見たことがない」等の感想をいただき、手応えがあります。

本土と沖縄のかけ橋になりたいと思っております。

地元の方たちと接するときにみなさん、「そうしましょうね～」といわれます。初めて暮らす地で、そういわれるとても安心します。その意味は「そうします」ということです。

そして会話中、とても笑顔でオッケー、オッケーと言ってくれます。

近くのお店とも親交が深まっている

車を運転していても、クラクションを鳴らす人はいません。私も鳴らさないことにしました。天気も島の天気で、晴れていると思うと急にスコールがふってきたりしますが、とても自然です。この小さい島に宝物がたくさんつまっている事を実感します。いっぱい学んで、いっぱい伝えていきたいです。

この冬もとても暖かく、寒い日でも15度ぐらいでストーブはいりませんでした。杉の木がないので、いつも悩まされていた花粉症がなく、とても快適です。島が小さいので、どこへ行くにも近くて便利です。住んでいるところも半径5㎞以内に病院、銀行、スーパーマーケットやレストランなど、なんでもそろっています。

毎日が新しい出会いで感動します。

皆様も是非沖縄に遊びにいらしてください。

文芸

槐の会　2月句会作品

葬りの春雪を踏むしづかな歩　佐野　鬼人
清流の谺棲みをり蕗の薹　永井　清美
沼の辺に動くもの増ゆ峡の春　遠藤　掬江
二ン月や水蓼窟のこゑ琥珀　田中　純子
寂しさに逆らふ酒や春の宵　土橋　秀子
北窓を開くや鳥の声入るる　松下　朱美
宮鳩の旋回春の謳歌かな　入川　敦子
スキップで土手行く児等や春近し　中野　洋子
六千歩靴ひもゆるむ老いの春　神　一男
早春の音に蛇行の水こだま　樋口三代子
梅林の白き香誘ふ鳥の影　佐々木元子
大玻璃の景色動かす春一番　今村　益子
幽谷の流れの音や水草生ふ　佐野　道子
繕ひの羽毛漂ふ春の水　佐野　公子
無住寺の沈丁の香やいづくから　黒川　礼子
斉場の窓に名残りの白い雪　清　まさじ
山笑ふ半日村のつづきをり　佐野　和彦
菜の花の展ける中やウエディング　石川むつ子

麦の会　3月作品

声なさぬ祈りに噎せる春の霧　佐野　鬼人
羽搏きの雫こぼせり春夕焼　小澤　円梨
蘆の芽や渡り馴れたる丸太橋　山田まさ江
一輪の見上ぐる空や白椿　村松きよみ
一と鍬の土綻びて春のこゑ　杉原　明子
塗り変へし祠に灯る春の宵　佐藤かつ恵
山焼きの炎たかぶる風の声　清　果林
水音に添ひ歩きゆく蕗の薹　渡辺恵里子
子の牛より自由なりたるゴム風船　橋詰　千
古里の野原に摘みしげんげかな　志田　万作
啓蟄の風なごみたる里の昼　望月　良
遠山の鴉の群や春の雪　望月喜美子